

平成30年度 学校評価報告書

高砂市立伊保小学校

学校の教育目標

学校の教育目標「人間尊重の精神を基盤とし、自ら学び、こころ豊かに、たくましく生きる子どもの育成」
 学校経営目標「地域に信頼される学校・地域に信頼される教育」
 学校経営方針「つなぐ・つくる・ひらく」

自己評価方法の適切さ

○学校評価アンケートの結果を児童、保護者、教師の評価項目を関連させて達成状況を検証している。
 ○全職員で評価項目を検討し改善に取り組んでいる。
 ○学校評価委員会でも、検討を重ね今年度の取り組みのふり返りをしている。

本年度の学校重点目標

重点取り組み ①学習指導の充実 ②生徒指導・いじめ対応の徹底 ③特別支援教育の充実
 ④道徳教育の充実 ⑤小中一貫教育の充実 ⑥危機管理の徹底
 推進取り組み ①外国語活動の推進 ②人権教育の推進 ③体力づくり、文化活動の推進 ④情報教育の推進⑤環境教育の推進 ⑥開かれた学校づくりの推進

総合的な学校関係者評価

○学校評価について自己評価結果は適切である。
 ・毎年、アンケート結果に基づき、PDCAサイクルに従って、次年度に活かす努力が見られ、地域・児童・保護者に対し、真摯に向き合おうとしている様子が伺える。
 ・危機管理体制の整備について、保護者への啓発が必要で講習の機会をつくることで児童の命を守ることにつながる。また登下校についても、登校時は交通ルールを守り安全に登校している児童が多いが、下校時は寄り道をしたり危険なことがあったりと心配なことがあるので指導の徹底が必要である。
 ・開かれた学校として、ホームページ掲載について、見る側の立場に立った内容を検討していく必要がある。

総合的な自己評価

児童が元気に登校し、確かな学力を身につけるため、わかりやすい授業を心がけ、地域の皆さんの協力のもと、成長していけるような学校を目指して取り組んできた。保護者、児童のアンケート結果に比べて教師の評価が低い項目があり、内容の検討が必要である。課題のある項目については、児童の実態に応じて研修を深め、個に応じた指導の工夫や改善を図りながら学校づくりを推進していきたい。

自己評価結果（ 達成している 概ね達成している やや不十分 不十分 ）

評価の観点	評価項目	達成状況	平成30年度取組の方策	自己評価の適切さ
1 組織運営	・組織としての校務の効率化と活性化	達成している	・チームとして組織的、協働的に取り組むための会議のあり方の改善と、時間の確保 ・校務分掌活性化のための見直しと、校務分掌内容の改善を図るための具体的な目標設定と検証	学校評価委員会
2 危機管理体制の整備	・危機管理の徹底 ・実践的な研修・訓練の実施 ・安全教育の実施	概ね達成している	・危機管理マニュアルに基づいた対応の把握 ・教職員の研修及び各訓練の実施及び振り返り ・登下校指導の強化と安全指導の充実	教職員の資質向上 ・教師が多忙極まる日々の中で、どのように校内研修や授業研究を充実させるか具体的方策を考え改善していく必要がある。
3 教職員の資質向上	・校内研修の実施 ・授業研究の実践	概ね達成している	・校内研修において、児童の課題を明確にし、日々の授業に生かせる内容や方法を探求する研修の実施 ・児童の知的好奇心を高め、主体的に学べる授業研究の継続 ・小中一貫教育を見据えた、学力向上につながる授業の工夫	生徒指導 ・今後SSWとの、より緊密な連携を図る必要がある。 ・学年日より、HP、一斉メールなど繰り返しの呼びかけによる「伊保っ子のやくそく」の徹底を図る。 ・教師の評価は、保護者や児童の比べると低いけれど、取り組みは昨年度より研修を重ね、時程通りに授業が進むよう配慮しながら工夫していった。特に中間時と昼休みの後、毎日教師が運動場に出て教室に戻るよう声をかけ続けた結果、随分早く教室に戻ることができるようになった。 しかし、子どもの実態としても評価が昨年度より下がっているため、来年度に向けて生徒指導部会を中心に「伊保っ子のやくそく」や、きまりなど見直している。
4 生徒指導	・生徒指導体制の確立 ・基本的な生活規律の徹底 ・個に応じた指導の工夫	概ね達成している	・生徒指導体制を実効性の高いものに見直すための検討 ・「伊保っ子のやくそく」の徹底 ・組織的な指導を進めるための情報交換の緊密化 ・「いじめ」「不登校」を出さない、なくすための職員研修の実施と指導	確かな学力 ・今後も、わかる授業の展開や落ち着いた教室づくりを目指して、一層の努力と改善が必要である。 ・「あじみ」や「めざせ伊保っ子」について親に向けては入学説明会で説明していたり、HPでも紹介したりしているが、なかなか定着していないようである。 ・家庭学習についても力を入れて指導していきたい。
5 確かな学力	・学習規律の徹底 ・指導時間の確保と充実 ・授業の工夫改善 ・学習環境づくり（校内・教室等）	概ね達成している	・学習規律の共通理解を図り系統的連続的な指導を行う ・読み書き計算の基礎を固める学習タイムの取組 ・学習の目標を明確化しわかる授業をめざした指導法の工夫 ・学びの場こふさわしい教室、学校環境づくり	人権教育 ・教員のアンケートと保護者・児童のアンケートに差があるので内容の検討が必要である。
6 道徳教育	・「道徳の時間」の指導の工夫	概ね達成している	・教科書やその他の資料を活用した授業の工夫による授業力の向上 ・「特別の教科道徳」の研修 ・道徳の時間に学んだことを、学校生活の中に生かす指導 ・道徳の全学級授業公開および保護者への啓発	特別支援・小中一貫教育 ・どちらも啓発の結果が出ており、保護者の認知度が高くなっている。
7 人権教育	・「人権尊重の精神」「豊かな人間性」の育成 ・人権学習の充実	概ね達成している	・全児童の自己肯定感を育成するため、 <u>人権教育全体計画に基づいて取り組む。</u> ・職員研修を通して教師の人権意識の向上を図る ・学年、学校日より等で保護者や地域への啓発を図る	体験活動 ・自主的に取り組めるよう行事、活動の内容等を見直し、指導の在り方を工夫し改善をした結果、概ね達成できた。 ・生活科・総合的な学習の時間の充実の教員評価が低いのは、担当者任せの授業研修であったり年間計画やカリキュラムの見直しが多不十分であるからと考える。 ・記述式解答の中学校オープンスクールへの意見は、6年生と中学校で十分検討して子どもの意欲づけとなるような内容にすることで解決すると考えられる。 ・教師の授業研究に参加する機会を増やすには、自習がおおくなるのでなかなか時間的に余裕がない。授業内容を検討したり、スキルアップを図ることは必要である。
8 体育保健指導	・運動への意欲、体力・運動能力の向上 ・給食を活用した食育の推進	達成している	・体育の授業の中で運動能力を向上させるための継続的な取組と授業の工夫と改善 ・学校保健安全計画に基づいた保健指導の推進 ・児童が食べることに對して、感謝の気持ちをもつような食育の推進	
9 特別支援教育	・個々の課題を明確にした教育支援計画、個別的教育指導計画に基づく指導 ・指導方法、指導体制の工夫改善	概ね達成している	・児童理解に努め、合理的配慮を視野に入れて個に応じた支援をする。 ・保護者との連携を図り、長期的視野に立った教育支援計画の見直しと作成 ・「特別支援教育」の理解を高めるために <u>学校だより</u> 等で取り上げ啓発をする	
10 体験活動	・特別活動の充実（学校行事） ・特別活動の充実（学級活動・児童会活動） ・生活科、総合的な学習の時間の充実	概ね達成している	・学校行事、学級活動、児童会活動への自主的な取り組みを目指した教師の指導の在り方の改善 ・児童が主体的に取り組めるカリキュラムの工夫	
11 開かれた学校	・家庭や地域への情報発信 ・家庭や地域との連携	概ね達成している	・学校公開や、小中一貫に向けた取組、教育活動全般について、各種たより、ホームページなどによる保護者、地域へ発信と啓発 ・学校行事、授業、特別活動、行事などへの参観・参画の活性化 ・保護者、地域、学校支援ボランティアとの連携の強化	
12 小中一貫	・小中一貫に向けた取組の充実	概ね達成している	・小中の教職員で9年間を見通した学習指導や生活指導のあり方の共有 ・小中相互授業参観を実施する中で、小中を通した指導内容や指導方法の工夫	

